

人紙の表

『家族的情味』を 実践する「SA」 履修相談などで 新入生の不安を解消



総合政策学部2年

山崎晴也さんと
SAの仲間たち



学生による、学生のための制度
総合政策学部の「専売特許」

「SA」をご存じだろうか？「SA」とは、「Student Advisor」。1993年に創部した総合政策学部が、本学の他学部のみならず、他大学にも先駆けて導入した学生による、学生のためのアドバイス制度だ。

大学に入学して右も左もわからないで不安を抱える新入生を対象に、1年先輩の2年生が学生生活や履修方法などについて、いろいろとアドバイスをすることで、創部1年後の1994年に実質スタートした。

総合政策学部の定員は1学年250名。少人数なので、教員、職員、学生が三位一体となり、「一人ひとりの顔がみえる」ように、というのが、「S

A」発足の趣旨。「質実剛健」と並んで中央大学の校風である『家族的情味』を実践した活動だ。

その「SA」の今年度の総代表が、総合政策学部2年の山崎晴也さん。

山崎さんが、「SA」に参加した理由は、1年前の入学時にある。入学式が終わった後、プラカードを持った学生が「総合政策学部の方はこちらです」と案内をしていた。その先に待っていたのは、学部の入学式。「なんとアットホームな学部なんだろう！新入生のためにここまで面倒をみてくれるのか、と感動した」という。

公募制でアドバイザーは2年生
歓迎班など4班編成で活動

公募制の「SA」に応募し、入学時のクラスミーティングで知り合った先輩からの誘いもあり、今年度の総代表を務めることになった山崎さんは、まずビジョンに「最高のスタートを、終わらないつながりを」と掲げた。当初は19人だったメンバーは、総合政策学部2年生のメーリングリストなどを活用して42人にまで増やした。

メンバーは総代表のほかに副代表が2名で、あとは4班（各班10名程度）に分けた。ひとつは、

学部入学式を中心としたセレモニーを担当する歓迎班。

二つ目は、総合政策学部生の意識を高めるための説明会を行う総政班。パワーポイントを使った説明だけではなく、メンバーが制作した学部生にインタビュールした映像をみせるなど本格的だ。

三つ目は、学部棟だけではなく、キャンパス情報満載のパンフレットの作成や今年度から導入した「ごくらり」を企画するパンフレット・履修班。そして四つ目が、スポーツ大会やお花見を通じて、友人をつくる機会を設けることで不安を解消してもらおう親睦班だ。

各班は、「総合政策学部をよくしていこう」と、

昨年12月後半から春休み返上で準備をすすめ、4月末まで新入生がキャンパスになじめるように力を尽くしてきた。

「自分の成長にもつながる」SA 「自由闊達」な学部気風を醸成

「SA」は、年々、エンタープライズな要素を取り入れてグレードアップしている。今年度から導入した「5階クラスで行われる履修相談」、通称「ごくらり」は、そのひとつだ。クラスミーティングが行われた後、クラス単位で学部棟5階に移動し、そこで選択必修や必修科目の説明を行う。履修相談も同時に行うことで、新入生が不安を解消する手助けをしている。



SAの仲間と楽しく打ち合わせ



「人のために何かするのが好き」と山崎さん

山崎さんは、SA活動について「誰かのために何かをすることに魅力を感じている。大学生活に不安を覚えていた新入生が友達と楽しく過ごしているところを見ると、達成感がある」という。また、「仲間と試行錯誤しながら企画をつくりあげていくことで、自分の成長にもつな

がる」と話をしてくれた。

「SA」は、総合政策学部の「学生間のコミュニケーションが活発で自由闊達な気風」をつくる原動力になっている。

(学生記者 新部真子 文学部4年)